- ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1)(表 1)などと文中に記載し、右ページに(写真 1)(表 1)などと表記の上、貼り付けてください。
- ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。

%いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名:

働き方改革実践部門

エントリー名: 厚沢部町立厚沢部小学校 松村 浩良 平成30年度第4回副校長・教頭等研修

活動名:

SWOT 分析で働き方改革 ~強みを生かしたかけ算の学校運営~

解決すべき課題:

本校は、時間外勤務が常態化しており、特に、平成30年9、10月における月当たりの時間外勤務時間の平均が約57時間になっていた。9、10月は学校行事の準備、公開研究会に向けての指導案作成、生徒指導上の諸問題が発生していたことが要因である。働き方改革については、平成30年度第4回副校長・教頭等研修「学校ビジョンと戦略」で、学校の内外環境の分析(SWOT分析)や学校の業務改善について学んだ。

目標·方針:

教頭が中心となって、本校の内部環境の強み(Strength 以下S)、外部環境の支援的要因(Opportunity 以下O)を生かした働き方改革を推進し、効果的な教育活動を推進する。また、月当たりの時間外勤務時間について前年同月比10時間削減、月45時間の時間外勤務を超過する教職員の割合について前年同月比20%削減を目標とする。さらに、時間外勤務を削減するだけではなく、働き方に関する課題を解決することにより、教職員の学校運営参画意識の向上を推進する。

活動内容:

(1) SWOT分析による自校の強みの把握

第1回(4月): F-7別研修会で3~4人のグループを編成し、SWOT分析を行った。

第2回(5月): SWO T分析の結果、自校の強み(S、O) について重視していく項目をまとめた。

(図1、図2)

(2) 時間外勤務の要因となる業務の把握、強みを生かした働き方改革の提示

第1回(6月):各分掌の部長が集まり、学校運営に関する協議を主とする部会(以下、総合推進部

会)で時間外勤務の要因となる主な業務について意見を出した。

第2回(7月):総合推進部会で時間外勤務の要因となる主な業務をまとめた。(図3)

第3回(8月):総合推進部会で教頭が強みを生かしたかけ算の学校運営を提示した。(図4)

教頭が働き方改革に関する各取組の担当者を提示した。

活動の成果:

- (1) 強みを生かした働き方改革に関する取組を式に表すことで見える化でき、全教職員で共有できた。
- (2) 9、10月の時間外勤務時間について、前年同月比10時間削減を達成できた。(図5)
- (3) 9、10月の月45時間の時間外勤務を超過する教職員の割合について、前年同月比20%削減を 達成できた。 (図6)
- (4) 強みを生かした働き方改革を推進することにより、教職員の学校運営参画意識が高まった。(図7)

アピールポイント (アイディアや工夫):

- ・全教職員で SWOT 分析を行い、自校の強みを把握した点
- 自校の強みを働き方改革に生かした点
- ・働き方改革の取組を式に表し、見える化した点
- ・働き方改革により、数値目標が達成できた点
- ・働き方改革を学校運営参画意識の向上につなげた点

※事務局記入欄

No. B-39

内部環境の強み(Strength)

校内研究において、模擬授業が積極的に 取り入れられている。

初任、中堅、ベテラン段階の教員のバラン スがよい。

学級担任以外の教員が3名いる。

広域人事で赴任した教員が、自分の実践 を自校に還元している。

図 2

外部環境の支援的要因(Opportunity)

【様式2】

地域が学校に協力的である。

教育熱心な地域であり、先進的な取組に肯 定的である。

学校運営協議会が設置されている。

学芸員が学校に協力的である。

幼保小連携の取組が開始されている。

小中連携の取組が充実している。

図3

図 1

時間外勤務の要因となる主な業務

子供祭りの準備に時間を要する。

公開研究会の指導案作成に時間を要する。

キャリア教育推進に時間を要する。

プログラミング教育のカリキュラム作成に時間を要する。

教頭と担任で生徒指導上の問題に対応して おり、解決に時間を要する。

テーマ別研修会の準備に時間を要する。

図 4

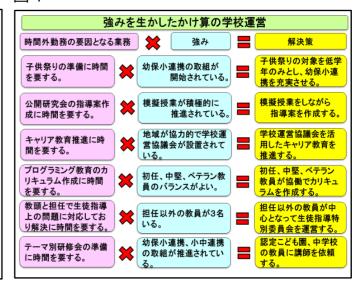


図 5

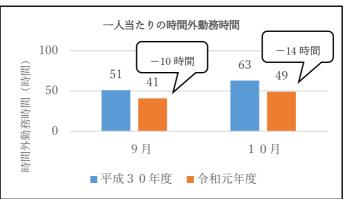


図6

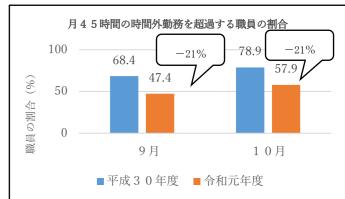


図 7

- ・働き方改革は、業務を削減するだけだと思っていましたが、自校の強みを生かして解決できることを知りました。今回のようにノープランではなく自分の案をもって使命を果たしたいです。(7月総合推進部会後の感想)
- ・模擬授業をしながら指導案を作成することで、授業者個人にかかる負担が減ったと思います。特に、初任段階の教員が授業者となる場合は、「模擬授業をマネジメントし、頼られる存在に!」「自分の技術をオープンに!」を意識して自分自身を高めていきます。(10月校内研究授業後の感想)